

「緑の募金」を活用した 能登半島地震被災地の支援

はじめに

令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」により、能登地方の各地で家屋の倒壊など甚大な被害が発生しました。この地震により亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々に対しまして、心より深くお見舞い申し上げます。

本稿では、皆様から寄せられた「緑の募金」を活用した被災地支援の取組を紹介いたします。

「復旧支援使途限定募金」

（公社）国土緑化推進機構では、「春の募金期間」（1月15日～5月31日）に合わせ、地震災害被災地の復旧・復興に向け、被災地支援に使途を限定した「復旧支援使途限定募金（地震被害）」の呼びかけを行いました。東日本大震災や熊本地震等の被災地の復旧支援に取り組んできたノウハウを活かし、緑化や間伐材等の利用を組み合わせ被災地の生活環境の向上・復旧等を長期的に支援していくこととしています。

さらに、「みどりの月間」（4月15日～5月14日）の開始に合わせて、石川県緑化推進委員会等と連携し、地震により大きな被害を受けた能登ヒバの関連産業の復旧・復興支援も見据えて、能登ヒバを使用し、石川県内で加工された「チャリティ・ピンバッチ」を制作し、募金に協力いただいた皆様にお渡ししています。令和6年5月末までに約750万円に上る募金が

寄せられ、被災地の支援に役立てられています。



能登ヒバチャリティ・ピンバッチ

組手仕の提供

多数の家屋が被害を受けた地域では、避難生活が長期化する中で生活環境の向上が重要となります。全国

緑の募金

戦後の荒廃した国土に緑を取り戻すことを目的とし、昭和25年に「緑の羽根」募金運動として開始されました。平成7年には「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」により法制化され、（公社）国土緑化推進機構、都道府県緑化推進委員会により募金活動が実施され、造林、間伐等の森林整備等に役立てられています。

から寄せられた支援物資の整理や生活用品の整理等に役立ててもらったため、「緑の募金」を活用して、間伐材等を使用した組立什器である「組手仕」を避難所等に提供する取組が行われました。

支援には、石川県をはじめ、宮城県、栃木県、岐阜県、愛知県、滋賀県の生産者等から提供された国産材（スギ・ヒノキ）の組手仕が用いられています。（公社）石川県木材産業復興協会等が中心となって避難所からの要望のとりまとめや組手仕生産者等との調整を行い、発災から約半年となる6月末までに5市町（金沢市、七尾市、輪島市、珠洲市、能登町）に所在する避難所、支援物資の集配拠点、仮設住宅等30箇所以上に約3万本の組手仕が届けられました。組み立ては親子や友達同士で楽しみながら行われ、支援物資の整理棚や下駄箱として活用されました。また、NPOと連携し、仮設住宅入居者とともに棚作りを行うワークショップも開催しています。被災者からは組手仕の利便性に加え、木の香りや温もりを喜ぶ声が寄せられています。

【組手什とは】

長さ約2m×幅40mm×厚さ15mmの間伐材等に、“組手”とよばれる溝加工が施されており、数本～数十本を組み合わせて収納棚など様々な用途で使用が可能です。

特徴① 何でも作れる!

避難所の状況や、避難者の多様なニーズに合わせて、カットしたり組み合わせたりして、自由に棚などを作ることができます。

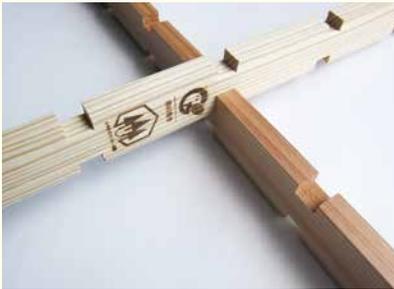
特徴② 誰でも作れる!

コツさえ掴めれば、小学校低学年からご高齢の方まで組み立てることが可能です。

特徴③ 何度でも使える!

接着剤や釘を使わないため、形を変えて再利用できます。

例：避難所の支援物資整理棚→仮設住宅の本棚



組手什



支援物資(衛生用品等)の整理棚



避難所の下駄箱

支援の事例

■矢田郷地区コミュニティセンター (七尾市)

土足で利用されていた避難所を、衛生管理の観点から土足禁止とするため、避難者や災害ボランティア等が協力して236名分(13台)の下駄箱を組み立てました。



■仮設住宅団地(輪島市)

居住スペースの限られる応急仮設住宅の住環境改善を目的として、入居者と災害支援ボランティアが一緒に棚を作るワークショップを開催。多くの世帯から参加者があり、組手什を活用した棚の製作を行いました。



今後の取組

今後は、花壇や共同菜園に利用できる種苗や苗木の提供を行うほか、地域材を活用した組立式の木製プラントーやベンチ等の製作ワークショップを開催し、仮設住宅団地・復興商店街等における緑化支援を行っていきます。これらの活動を通じて、被災者同士の交流や生きがいづくり、コミュニティの再生等、息の長い支援を続けていくこととしています。